

## 弘前大清水ホームでの看取り における意志決定支援

令和元年10月19日(土)  
特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム  
看護師長 吉田 冬子

## 弘前大清水ホーム



## 施設紹介

〈社会福祉法人 藤聖母園 理念〉  
一人ひとりかけがえのない存在として  
生きることに  
生きることに

開設日：昭和48年  
定員：多床室80床  
短期入所生活介護2床（併設空床型）  
入居者の平均年齢：87歳  
平均入居期間：約3年6ヶ月  
平均要介護度：4.0

3

## 職員配置

園長  
医師（非常勤）  
事務：4名  
相談員：1名  
看護職員：（看護師3人、准看護師3人）6名  
機能訓練指導員：1名  
介護職員41名  
パストラルワーカー：2名  
栄養士1名  
調理員：8名

4

## 施設にいることへの利用者の思い

帰りたい。でも…自分一人ではなにもできなくなってしまった。家族には迷惑をかけられないから、ここで世話になるしかない。

「弘前大清水ホーム パストラルワーカーより」

※パストラルワーカー  
利用者や家族への心のケア（スピリチュアルケア）  
を専門に行うスタッフ

5

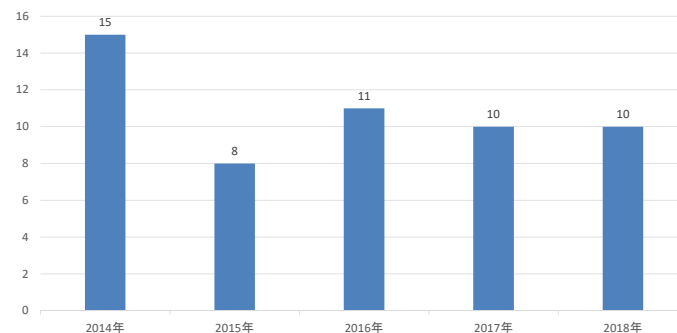
## 入所に関してご家族が抱える思い

- ・入居するのを嫌がったが入居させざるを得なかった
- ・自分で面倒を見たかったが、自分の体調もすぐれない
- ・家に帰りたと言われても叶えてあげられない
- ・本当は、自分が面倒をみるべきなのにできない
- ・頻繁に行けずに心苦しい

「弘前大清水ホーム敬老の集いの案内 ご家族からの要望の欄より」

6

## 2014～2019年度の看取り件数



7

## 入所～看取りまでの意思決定支援の流れ

1. 入所前の説明
  - 1) 施設で対応できる医療の範囲と内容を説明し、人生の最期の迎え方について本人・家族の考えを伺う
2. 安定期
  - 1) 9月のご家族懇談会で自分の親や兄弟の最期をどのように迎えたいのか問いかける機会にしている
  - 2) 「人生の最終段階における医療に関する意向調査書」を年に1度提出してもらう（10月）
3. 不安定期
  - 1) 体調に変化があったときは、今後の経過と予想される状態について説明と情報提供を行い、施設で対応可能な医療提供の説明と、利用者や家族の希望をすり合わせる

8

## 入所～看取りまでの意思決定支援の流れ

### 5. 看取り期

- 1) 医師の診断と想定される経過や状態について具体的な説明を行う
- 2) 面会の時や電話で詳細な日々の報告と、利用者や家族の受け止め方や気持ちの揺れに対応する
- 3) 施設で提供できる環境やケアについて説明し、看取り介護への同意を確認後、「看取り介護同意書」に記入をお願いする

### 6. 看取りケアプログラム開始

9

## 看取りケアプログラム

### 看取りケアプログラム A

看取り期第Ⅰステージにおいて、利用者の状況に合わせて行う。  
1時間ごとに職員が訪室し、利用者への声かけ、様子の観察を行い、記録する。

9:00	看護師 (バイタルサイン確認-早番)
10:00	P・W
11:00	介護員
12:00	相談員
13:00	P・W
14:00	介護員
15:00	看護師 (バイタルサイン確認-その日の居番担当)
16:00	栄養士
17:00	事務員
18:00	看護師 (バイタルサイン確認-遅番)

※夜勤帯は介護員が1時間毎の訪室、観察、記録を行う。

### 看取りケアプログラム B

看取り期第Ⅱステージにおいて行う。30分の間隔で職員が交代で付き添い、利用者への声かけ、様子の観察を行い、記録する。感謝の気持ちで人生最期の時間を過ごさせていただく。

9:00	看護師 (バイタルサイン確認-早番)
9:30	介護員
10:00	P・W
10:30	P・W
11:00	介護員
11:30	P・W
12:00	相談員
12:30	P・W (ミサのある時は介護員)
13:00	P・W (ミサのある時は看護師)
13:30	相談員
14:00	介護員
14:30	P・W
15:00	看護師 (バイタルサイン確認-その日の居番担当)
15:30	事務員
16:00	栄養士
16:30	介護員
17:00	看護師

※夜勤帯は介護員が30分毎の訪室、観察、記録を行う。

10

## 事例

K氏：85歳 入所期間 約7年

日常生活自立度C2

認知症高齢者の日常生活自立度 IIIa、

【主たる疾患】

くも膜下出血 両大腿骨頸部骨折

【入所に至る経緯】

長女夫婦、孫4人と同居。平成10年くも膜下出血による後遺症で車椅子生活となった。その後、転倒による大腿骨頸部骨折や誤嚥性肺炎による入院を繰り返し寝たきりとなり、平成19年に胃瘻造設される。自宅での介護は難しく、平成24年11月から当施設へ入所となった。失語症があり、質問に「うん」「ううん」と答えることは可能だった。1年位前から、全身機能の低下もあり、発熱する頻度が増えてきた。

11

## 事例

【経過】

平成30年6月～発熱・痰がらみあり、点滴と内服薬で経過観察するも、夜間になると熱が38.0台まで上昇する日が続いた。回診の時の医師からの説明をもとに、朝に行われるミーティングで園長、相談員、看護師、介護、栄養士、事務で話し合いを行い、娘さんにK氏の最期をどのように考えているか意向を再確認していくこととなった。

12

## 意思決定支援の場面

年/月	医療従事者からの説明	家族の意向
R1/7月	長女に電話で状態の報告（看護師） 6/4～発熱と痰がらみが続き、点滴とお薬が出ています。熱が日中は36.0台で過ごしていますが、夜間は38.0台まで熱が上がることを繰り返しています。昨年、10月の意向確認書では、もしもの時に、今は判断できないとありましたが、病院に行って積極的な治療を望みますか。	苦しそうにしているわけではないのであれば、病院で色々検査したり、入院して治療するのは可哀想なので静かに最期はホームで迎えさせたいと思います。
R1/8月	結核検診で再検査の結果（看護師） 結核検診で要精検になった部位に異常はありませんでしたが、肺に腫瘍があります。病院で検査をするとなるとK氏に負担のかかる検査になるかもしれません。確定診断がついたとしてもK氏の状態を考えると治療が難しい可能性が高いですが、どうしたいですか。	検査となると本人の負担も大きいでしょうから、入院はせずにホームでお願いします。

13

## 事例

### 【経過】

令和元年5月ごろより喀痰を吸引しなければならぬ回数が増え、6月頃から経管栄養を注入後、顔色不良、多量の発汗がみられるようになった。対症療法を行い、状態に変化があった時は、その都度娘に報告を繰り返していた。しかし、1週間に1度は面会に来ていた娘さんが面会に現れずに、8月から努力呼吸が見られるようになった。

14

## 意思決定支援の場面

年/月	医療従事者からの説明	家族の意向・思い
R1/8月	・長女に電話で状態報告（看護師） 発熱、痰がらみがあり点滴やお薬で様子をみていますが、呼吸の仕方がいつもと違います。今の状況からみて残された時間は長くはないと思います。 ・あんなに大事にしていたお母さんなので、もしもの時に後悔はして欲しくないんです。お顔を見に来ていただけませんか。	・母親の事は気にはなっていたが、犬が死んだばかりで、今、行くと母が引っ張っていかれそうで行けなかった（来ることをまだ迷っている様子） ・来てみて良かった。このような状態なら、明日も明後日も来ます。
R1/8月	回診の後に医師が記入した、看取りの同意書を見せ、長女面会の時に肺腫瘍もあり、全身機能の低下もみられ、呼吸状態もあまりよくないため、回復が難しく、保存的に経過を見るのが望ましいという医師からの説明があったことを伝え、意向の再確認をし同意書に同意をいただく。 →看取りケア開始	「やはり、母とはお別れしなければならぬんですね」「よろしくお願ひします」

15

## K氏看取り後のご家族のことば

- ◆最期は看取ることができて良かった
- ◆母に聞いたかったことが聞けた
- ◆「施設に入れて私のこと恨んでらべ」それに対して怒ったように「うん」と、「私のために頑張って生きてくれたんだよね」「うん」と、もうしゃべる力も残ってないはずなのに大きな声で返事してくれた
- ◆何度も何度も母の状態を説明してくれたので、段々心づもりをすることができた
- ◆本当に最期まで良くして頂いてありがとうございます

16

## ご家族が残していってくれることば

みんなに会えなくなると寂しいから、  
また遊びに来ていい？

17

## 意思決定支援につながる組織風土

- 1、死の準備教育
  - ・看取られて見送られていく利用者をご家族が何度も目にしている
- 2、利用者・ご家族に寄り添う姿勢



利用者やご家族への日々のかかわり方の積み重ねが、納得のいく意思決定支援につながる

18





## これからの課題

利用者がまだ自分のことが話せる時期に、最期はどこまで医療を望むのか、どこで過ごしたいのかを他の利用者を見送った時や供養祭の時などタイミングをみて、あらかじめ話し合っておく

22

## 参考文献

- 1) 長江弘子(2018). 看護実践に生かすエンド・オブ・ライフケア 第2版, 日本看護協会出版
- 2) 長尾和弘(2017). 緩和医療・終末期ケア, 中山書店
- 3) 森田達也, 白土明美(2015), 死亡直前と看取りのエビデンス, 医学書院
- 4) 宮崎和加子, 竹森志穂, 伊藤智恵子, 樋川牧(2016), 在宅・施設での看取りのケア, 日本看護協会出版
- 5) 竹之内紗耶香(2019), 看護現場に望まれるアドバンス・ケア・プランニングとは?, ナーシングビジネス, 第13巻, 7号, 8-13
- 6) 木澤義之(2019) ACPの基本的考え方とガイドライン解説, 看護, 日本看護協会出版会, 第71巻, 第8号, 8-13

23